

IT21 の会（平成 19 年 5 月）第 109 回議事録

日時：平成 19 年 5 月 19 日(土) 13 時 30 分～15 時 15 分

場所：渋谷区勤労福祉会館 第 2 洋室

出席者：19 名

配布資料

- ・ 0705-1 IT21 の会 2007 年 5 月例会・総会の案内 第 4 版（最終）
- ・ 0705-2 情報化を支えるソフトウェア開発
 - ソフトウェア機能規模による開発管理を目指して（石田正浩氏）
- ・ 0705-3 出席表

議事

1. 議事および資料確認（中嶋幸宏氏）
2. ソフトウェア機能規模測定法、COSMIC-FFP 法の紹介（石田正浩氏）

機能規模の定量化方法の FP (Function Point) をリアルタイムシステムに適用した FFP (Full Function Point) を元に、COSMIC (The Common Software Measurement International Consortium) が提唱したのが COSMIC-FFP である。ISO、JIS にも制定されている。

本方法による定量化は、利用者機能要件 (FUR) から始まる。FUR は文書や図など自由な形で表現されるため、まずは統一的なモデルに当てはめるためのマッピングを行う。これは、レイヤ/境界/機能プロセス/データグループについて識別を行うものであり、これにより FUR を COSMIC-FFP 汎用ソフトウェアモデルで表現する。これを基に、データ移動の識別/測定関数の適用/測定結果の集計を行い、機能規模の測定を行なう。

レイヤの識別は、ソフトウェア環境の機能的分解 (割) により行う。境界は測定対象を明確化するもので、ユーザ視点からみたソフトウェアとの境界である。機能プロセスはデータ操作とデータ移動の集まりで、一連の FUR を実現する。データグループは、個別/空でない/順序のない/冗長でないデータ属性の集まりである。データ移動は機能プロセスの構成要素の一つで、一つのデータグループに属する一つ以上のデータ属性を移動するものであり、エントリ (E: ユーザから S/W)、リード (R: 記憶装置から S/W)、エグジット (X: S/W からユーザ)、ライト (W: S/W から記憶装置) の 4 タイプの移動で特徴付ける。測定関数の適用においては、ソフトウェアの機能規模はデータ移動の数に正比例するという測定原則に立つ。測定結果の集計は、レイヤ毎に個々のサブプロセスの機能規模を加算して行うものとし、各レイヤにおける E、X、R、W の回数の合計により算出する。

COSMIC-FFP では、データ移動に着目するため、データ操作が多くなる複雑なアルゴリズムのものや連続的変数処理を行うソフトウェアへの適用は困難とされる。

最後に、測定事例の紹介として、ライスクッカ (自動炊飯器) 組込みソフトウェアの機能規模測定例が紹介された。

3. 10 周年記念シンポジウムの報告 (小西洋三氏)

「IT21 の会 10 周年記念シンポジウム」が平成 19 年 4 月 21、22 日にアワーズイン阪急 (東京・品川区) で盛会に行われたことが報告された。

4. 初参加の方の自己紹介

本例会が初参加となる 5 名の方の自己紹介がなされた。

以上 (記載者: 近藤修平 記)